

理科 第4学年 ●これまでの学習をつなげよう

検討会の想定問答

指摘 1: 本時で何を見取るのか。

返し: 既習の内容や生活経験を根拠に、「今年の記録を使うと、まだ残った疑問をどう調べられるだろうか」について予想を立て、調べた事実と関係付けて表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。第3の2(1)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2: 活動だけで終わらないか。

返し: 自分のノートから空気と水の押し縮められ方、金属と水の温まり方の記録を選び、最初の予想、調べ方、結果、説明を並べる。生活経験や前の観察に基づく予想に印を付け、まだ説明できない部分を仲間の記録と比べる。学習していない単元は対象にしない。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。第3の2(1)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3: 予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し: 面白かったという感想だけにせず、記録のどの結果から分かったのかを指して説明する。友達と異なる結果は消してそろえず、調べた条件を比較する 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。第3の2(1)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4: 説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し: 比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。分かったことと残った問題を分ける活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5: 安全や個人への配慮は何か。

返し: 新しい危険な実験は追加せず蓄積した記録を使う。再実験は教師が安全と器具を確認できるものだけにする実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、第3の2(1)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6: 資料やICTはどのように使うか。

返し: 自分のノートから空気と水の押し縮められ方、金属と水の温まり方の記録を選び、最初の予想、調べ方、結果、説明を並べる。生活経験や前の観察に基づく予想に印を付け、まだ説明できない部分を仲間の記録と比べる。学習していない単元は対象にしない。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7: 時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し: 全1時間は啓林館の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「今年の記録を使うと、まだ残った疑問をどう調べられるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8: 振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し: 「今年の記録を使うと、まだ残った疑問をどう調べられるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。記録を根拠に学び方を説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

